

備えは現実を知る「こと」から始まる

「ねんきんネット」を使うことで、私たちの生活はどのように変わるのでしょうか。年金や投資に詳しいファイナンシャルプランナーの山崎俊輔さんにお話を伺いました。

年金見込額をもとに 老後資金計画を考える

寿命が延びると、いくら貯蓄をしていても、底をついてしまう恐れがあります。そうした「長生きリスク」に対し、公的年金には死ぬまで受給ができるというメリットがあります。長生きをすれば、払った保険料以上の給付を受けられるのです。

とはいえ、公的年金は老後の生活費をすべて保障するものではありません。日常生活にかかる基本的な生活費は賄えませんが、「豊かさ」や「ゆとり」につながる教養・娯楽費や交際費までは難しいでしょう。そうした費用をどうすればよいかの計画を立てるのに「ねんきんネット」は役に立つはずですよ。特に50代以上になると、年金受給額の見込みがはっきりしてきて、年金受給開始年齢を変更しなければ、年金受給額は大きく変わらな

いので、「ねんきんネット」で年金見込額を見て、現実には即した老後の計画を立てやすくなります。

公的年金以外の老後資金は、大きく分けて3つあります。1つ目は退職金や企業年金です。

2つ目が貸金です。たとえば短時間であっても、定年後も働き続けることで、老後に使えるお金を増やすことができます。貸金を得られる期間はその収入に頼り、年金受給開始年齢を繰り下げるようにすれば、年金受給額も増えます。もちろん、お金だけではなく、やりがいも得られます。年金受給開始年齢によって金額がどのように変動するかも、「ねんきんネット」で確認することができますので、それを見ながら、いつまで、どのような勤務形態で働くかを考えるとよいでしょう。場合によっては、定年後も働けるようにスキルを身につけるなど、今から将来の計画を立てることもできます。

3つ目が自助努力です。これは、老後が長くなったことで出てきた新しいテーマで、世界的なトレンドです。自分で資産を運用し形成する方法で、財形年金やiDeCo（個人型確定拠出年金）、NISA（少額投資非課税制度）などがあります。税制面も優遇されているので、自分に合ったものを選んで組み合わせることが可能です。

ですので、まずは「ねんきんネット」で年金見込額を確認したうえで、自分が必要とする老後資金を試算し、その差額をどのように埋めていくのかを考えてみるとよいでしょう。備えるには、まずは現実を知ることが大切です。

加入履歴を見て 納付漏れがないかを確認

若い方の場合、今後、昇給したり転職したりすると年金見込額が変わる可能性があるため、「ねんきんネット」で年金見込額を確認

する際は、今までの加入履歴にもとづく年金額だけでなく将来の加入見込みも踏まえた試算額も確認してみるといいでしょう。

一方、加入履歴は必ず確認したほうがよいでしょう。今までは、年金受給開始年齢になるまで、勤めている会社がきちんと厚生年金保険料を納めているかを自分で確認する方法がありませんでした。でも、「ねんきんネット」や「ねんきん定期便」により、確認できるようになりました。もし間違いなどがあれば、お近くの年金事務所または街角の年金相談センターに連絡し調査してもらいましょう。皆さんにはぜひ、現在の働き方を踏まえ、老後の生活などについて、配偶者や子ども、ご両親と話し合うきっかけとして「ねんきんネット」を使ってほしいですね。



山崎俊輔さん
1級DCプランナー／AFP／
消費生活アドバイザー／
投資教育家／年金教育家